

大前経営塾第39期 カリキュラム予定（2021年4月1日開講）

	現代の経営戦略 映像教材+Webディスカッション		新しい能力を身につける 書籍または映像教材+Webディスカッション	Real Time Online Case Study Webディスカッション+映像教材	大前研一ライブ 映像教材	経営者講義 映像教材+Webディスカッション
	テーマ(予定)	内容	テーマと内容			テーマ(予定)
1ヶ月目	危機下の経営戦略 ～最悪の事態に備えた事業計画案(プランB)～	新型コロナウイルスの感染が世界規模で拡大するなか、世界経済は天恵無き最悪の景気後退が予想され、企業経営にも深刻な影響を与えることが懸念されています。経営破綻する企業が出始め、失業率が上昇する一方で、コロナ禍が終息する兆しは見えず、事態が長期化することも懸念してお必要があります。かつてないほど経営環境が悪化する時代を生き抜くために、経営者は今何をすべきか、検証いたします。	<b>情報収集力</b> 経営者としての意思決定をするためには、的確な情報収集が必要です。情報収集の手段としてのGoogleの活用など具体的な手法を学びます。			京セラ株式会社 名誉会長 福盛 和夫
2ヶ月目	オンライン化する世界 ～全てのビジネスがオンライン化する時代の経営戦略とは～	米中貿易戦争や新型コロナウイルスの感染拡大により世界経済が停滞し、調達、生産、販売などの企業活動に多大な影響を与えている。また、移動の自由が制限されることにより、個人のライフスタイルにも変化が出てくるのが予想される。そのなかで、5Gの商用サービスが各国で開始されつつあり、企業にはビジネス活動のオンライン化の流れが加速している。世界経済の先行きが不透明ななかで、すべてがオンライン化する時代に、企業は巨大化する見えない大陸でいかに生き残ればよいのか、検証いたします。	<b>質問する力</b> 本質的な問題発見にあたって、経営者として、どのように問題を捉えているのか、その鍵となる「質問する力」を身につけます。			松下 幸之助 ※書籍を利用
3ヶ月目	デジタル・トランスフォーメーション ～企業はいかにデジタル変革を行うか～	産業のデジタル化が進み、あらゆる業界に変革が求められるようになっていきました。企業は既存のビジネスから脱却し新しいデジタル技術を活用することによって、新たな価値を生み出していくことが求められています。単にAIやIoTなどのデジタル技術を活用するだけでなく、企業文化、組織、人材育成など企業の変革を促す必要があるが、企業はいかにデジタル変革を行えばよいのか、検証いたします。	<b>ロジカルシンキング/考える技術</b> 意思決定にあたって、経営者としてどのように問題点を捉え、どのようなアプローチで解決策を考え、決定を下していくのか、事実をベースに論理的かつ創造的に問題を解決していくアプローチを身につけます。			未来学者 アルビントフラー
4ヶ月目	with/afterコロナ時代の成長戦略 ～企業業績の明確を分けた要因と対策～	新型コロナウイルスの感染拡大が企業経営にあたる影響が本格化するなかで、深刻な業績不振に陥る企業が出てきている。その一方で、高収益・好業績を残し、株主市場でも注目を集めている企業がある。これらの企業の明確を分けた要因は何か？with/afterコロナ時代の成長戦略はどうあるべきか、検証いたします。	<b>議論する力</b> グローバル化が進む中、世界の共通言語であるロジックを前提とした「議論する力」を身につけます。そのうえでより高次元な問題解決につながる議論のスキルについても学びます。			ユニ・チャーム株式会社 ファウンダー 高原 慶一郎
5ヶ月目	生産性を高める経営 ～企業はいかに「稼ぐ力」を高めていけばよいのか～	いま、少子高齢化、労働力不足、ライフスタイルが多様化するなかで働き方のあるべき姿について議論が盛んであるが、それらの多くは論点がずれている。本来あるべき働き方とは何か、また企業はいかに生産性を高めていけばよいのか、国内外の事例から検証いたします。	<b>構想力</b> 2045年頃に到来するとされるシンギュラリティを前に、いまやAIやロボットが本格的に社会・産業・生活に普及し始めている。定型業務がコンピューターやロボットによってどんどん自動化されていく中で、いかにプラスアルファの付加価値を提供できるかが、ビジネスパーソンにとって生き残りの鍵になるが、そのために必須となる能力が「構想力(KOUSOU)」である。「構想力」とは何か、どのように身に付ければよいのか検証いたします。			ソフトバンク株式会社 代表取締役社長 孫 正義
6ヶ月目	社内起業家を生み出す経営 ～いま一番必要なイントラプレナーを生み出す仕組みとは～	経営環境が劇的に変化するなか、企業内において新規事業を構想・創造する人材「イントラプレナー」に注目が集まっていますが、実際には思うようにイノベーションが進まない、新規事業を創出できる人材が少ない、という課題に多くの企業が直面しています。企業が生き残りかけた激しい競争に勝ち抜き、次の成長を達成するためにイノベーションや新規事業の創出は必要不可欠ですが、企業はどうやってイントラプレナーを生み出していけばよいのか検証致します。	<b>0から1の発想術</b> 現在の社会は、個人個人の創る富や生み出したアイデアが、世界経済に極めて大きな影響を与え、「一個人のイノベーションによって変化する世界」とあるといえます。その中で、ビジネスマンが生き抜くために必要な最大のスキルである、「0から1を創造する力」、「無から富を生み出すイノベーション力」を身につけるための「15の発想術」について学びます。	与えられた情報だけを用いて行うケースメソッドと異なり、情報収集や分析を自ら行い、解決策についての議論をクラスメイトと協力しながら行っていきます。また大前研一による講義解説から経営戦略の要諦を学びます。	過去1週間に起きた日本・世界のニュースの中から大前研一がピックアップ、独自の視点で解説する講義です。政治・経済・企業経営に関する最新動向を学ぶことができます。	ケニア・ナッツ・カンパニー 創業者 佐藤 芳之
7ヶ月目	日本の経営者の課題と対策 ～企業を取り巻く経営環境が激しく変化するなかで、いま日本の経営者はどうあるべきか～	近年、企業を取り巻く経営環境が激しく変化するなかで、日本の伝統の大手企業が次々に経営破綻の危機を迎えたり、大幅な最終赤字を計上する事例が増加しています。時代の変化を捉えられていないだけでなく、そこにはサリヤン化する経営者の資質、能力、後継者選定などのコーポレート・ガバナンスの問題、が指摘されている。いま日本の経営者の何が課題なのか、どうあるべきか検証いたします。	<b>低欲望社会「大志なき時代」の-新-国富論</b> 将来への不安感が蔓延し、若者の欲望が激減している今の日本では、政府の経済刺激策は効果が期待できません。凍てついた消費者の心理を溶かし、「縮み志向」の経済を転換させるビジネスチャンスはどこにあるのかを検討します。	このリアルタイム・オンライン・ケーススタディ(RTOCS)を行うことで、経営者として直面するであろう、あらゆる問題についての考え、経営判断能力を鍛えることができます。	株式会社オプティム 代表取締役社長 菅谷 俊二	
8ヶ月目	AI・ブロックチェーンのビジネスインパクト	AIやブロックチェーンは既存のビジネスを大きく変えていく可能性を秘めています。新しいテクノロジーの基本的な仕組みを理解した上で、企業や組織はどのように変化していくべきか、どのようなビジネスチャンスが創出されるのか、実ビジネスに活かしている事例を交えながら、考察いたします。	<b>ハイコンセプト（ダニエル・H・ピンク 著）</b> トフラーは第三の波を情報化社会と呼んだ。では第四の波は何か。それは「コンセプチュアル社会」である。新しいコンセプトをいかにつくり出して世の中に提示できるか、ビジネスリーダーに求められるクリエイティビティを学びます。			株式会社サイバーエージェント 代表取締役社長 藤田 晋
9ヶ月目	中国の論点 2020 ～日本(企業)はいかに対応するべきか～	拡大するコロナ禍の影響を受け世界経済が停滞するなかで、中国国内では新型コロナウイルスの感染状況が劇的に落ち着き、輸出拡大により経済活動が正常化に向かいつつある。米中対立の長期化や香港国家安全維持法の成立など国内外に問題を抱えながらも、習近平国家主席による政權運営は強固であり、中国が世界に与える影響力が拡大している。いま中国で何が起きているのか、今後中国とどのような関係を構築するべきか、検証致します。	<b>クオリティ国家という戦略</b> 中国などの工業国・巨大経済を持つ「ボリューム国家」の台頭により、「加工貿易立国ニッポン」は出口の見えない隘路に入り込んでいます。日本が今後、21世紀を勝ち抜くために必要な「クオリティ国家」の概念について学びます。			ナイキ 創業者 フィル・ナイト
10ヶ月目	世界、日本の政治、経済状況分析と今後の経済見通し	1年間の国内外の政治・経済動向を整理し、新しい年に向けての日本企業の経営課題を総括・検討します。	<b>新・資本論～見えない大陸へ挑む～</b> 「Invisible Continent(見えない大陸)」とは、現在大変革が繰り返されている新たなビジネスの舞台である。その新大陸で成功を収めるための戦略とヒントを学びます。			株式会社ファーストリテイリング 代表取締役会長兼社長 柳井 正 ※書籍を利用
11ヶ月目	世界経済を牽引するテクノロジー-大國 インド	インドは今やユニコーン企業数やスタートアップ資金調達総額等の指標において米中に次ぐ世界3位のスタートアップ・エコシステムの規模を誇っている。また「リープフロッグ」により、AI/データ系・シェアリング・社会問題解決など先端の技術やビジネスモデルで日本の先を行くべき事例が多い。そしてBOF・オプショアのターゲットから、「世界のR&D・イノベーション発掘ターゲット」へと変貌・高度化している。本講義ではインドのスタートアップ/テクノロジーの概況を解説するとともに、日本企業が学ぶべきインド企業との関わり方・ビジネスモデルを解説する。	<b>「リーダーの条件」が変わった</b> 大震災、原発事故、戦後日本が初めて経験する、先が見えない時代。このような環境で求められているリーダーシップとは何かを学びます。			エムスリー株式会社 代表取締役社長 谷村 裕
12ヶ月目	日本企業のキャリアパス問題とあるべき姿	20世紀の経営資源は「人・モノ・カネ」でしたが、21世紀の成功の鍵は「人・人・人」です。経営者が社内の人事制度の改革やシステム作りにより多くの時間を費やしている会社は良い会社になる可能性が高くなる一方、残念ながら日本企業の大半はそうではないのが実情です。世界的な人材競争がますます激しくなるなか、問題を解決できる余人をもって代えがたい人材「とつながら、彼らの能力を引き出し成果を上げていくために、日本企業のキャリアパスはどうあるべきか、検証いたします。	<b>50代からの選択</b> 充実した人生を送るためには30代、40代から第2の人生をどう生きるか準備を進めるべきです。そして50代は行動に移す旬。今までの自分の生き方を、すべてリセットして、どのように新たな生き方の準備をするのかを考えます。			オイシックス・ラ・大地株式会社 代表取締役社長 高島 宏平

※テーマは変更になる可能性があります。